

会 議 録

会議名	山陽小野田市図書館協議会		
開催日時	平成23年3月29日(火) 午後1時~午後3時		
開催場所	山陽小野田市立中央図書館 第1会議室		
出席者	仁多孝夫会長、古谷日登美副会長、濱田康昭委員、有田光枝委員 荒木淳子委員、山本桂子委員、植田眞理子委員		
欠席者	村上明子委員、山部絹子委員	委員数	9人
		出席者数	7人
		欠席者数	2人
事務担当課 及び職員	中央図書館 津田館長、吉藤副館長、 厚狭図書館 開初館長		
会議次第	1 開会 2 教育長あいさつ 3 議事 (1) 平成22年度事業報告について (2) その他 4 閉会		
会議結果	<p>事務局から、山陽小野田市図書館協議会規則第3条第2項の規定により図書館協議会の会議の成立を報告。 教育長代理として、社会教育課小野課長があいさつ。</p> <p>議事</p> <p>(1) 平成22年度事業報告について 事務局から、平成22年度中央図書館及び厚狭図書館の事業について報告。</p> <p>【質疑】</p> <p>委員 - 厚狭図書館では句会など生涯学習の活動が盛んに行われているが、中央図書館ではどうか。</p> <p>事務局 - 以前から小野田地区では公民館において句会が実施されていることは承知している。図書館でのニーズがあれば対応することは可能と考えている。</p> <p>委員 - 中央図書館の資料についても、講演会等の参加人数を記載してほしい。</p> <p>委員 - 図書館では多くの行事が実施されているが、職員数は足りているのか。</p> <p>事務局 - 職員一人ひとりが能力とモチベーションを維持しながら、精一杯頑張っているチームワークの賜物と考えている。 ただし、中央図書館においては、平成23年度から正規職員が1名減となるが、臨時職員の補充により総数は変わらない。</p>		

事業内容の見直しが必要となり、多少縮小するものがあるかもしれないが、最大限努力したい。本の貸出しだけが図書館の業務ではない。図書館法第3条に実施すべき事業が規定されている。利用者に喜んでいただけることが職員の励みにも繋がっている。

委員 - 図書館海援隊プロジェクトについて、就労と図書館とがどのように結びつくのか。

事務局 - 数年前の不況により多くの人々が職を失う中で、就労のための情報提供が必要となった。図書館には職業紹介や就職試験関連の本などが多くある。ハローワークの求人情報も配置しており、土日も利用できる。この図書館の可能性を活用したのが図書館海援隊プロジェクトである。今後、チラシの作成や市商工労働課とも連携しPRに努めたい。

委員 - 図書館では、学校への出前図書館や配本サービスが実施されており、以前に比べ図書館もずいぶん変わってきたと思う。

(2) その他

図書館条例の改正について

事務局から、前回の会議において説明した図書館条例の改正について、引き続き検討している旨の報告があった。

広域貸出しについて

事務局から、隣接市の市民への広域貸出しを認めるための規則改正について検討している旨の報告があり、委員に対し意見を求めた。

委員 - 現在、宇部市の図書館も利用しており、助かっている。認めてよいと思う。

委員 - 利用者カードがあれば貸出してもらえるので、利用する人も増える。利用者の範囲を広げることは図書館の活性化にも繋がる。駐車場は、市民館、体育館等の駐車場を利用すればよい。

議長 - お互いに利用し合ったほうがよい。反対の意見はないようなので、他の委員も賛成と思う。

祝日開館について

事務局から、祝日開館のための規則改正について検討している旨の報告があり、委員に対し意見を求めた。

委員 - 職員の増員がないと実施は難しいと思う。

委員 - 利用者にとっては便利になるが、職員のことを考えれば、無理する必要はないと思う。開館時間の延長もお願いしたいが、予算の問題もある。

事務局 - 職員の労働条件が保障されれば可能と思う。今の意見も参考にしながら検討したい。

分館のあり方について

事務局から、利用人数が伸び悩んでいる分館の今後のあり方について、委員に対し意見を求めた。

委員 - 高齢者にとっては必要な施設と思うが、今の子どもは放課後もスポーツ少年団活動などで忙しく、利用できる時間には開いていない。蔵書数も少なく、存在意義に疑問を感じる。

事務局 - 平成23年度から赤崎分館については職員も入れ替え、未就学の児童や高齢者を対象にした特色をもった分館にリニューアルしたいと考えている。高千帆分館についても同様に児童や高齢者に配慮した資料を充実させたい。

委員 - 分館は利用対象者を絞ったほうがよいのではないか。

委員 - 公民館の建て替えがあれば、分館となる図書館を合わせて整備してほしい。

事務局 - 分館職員1名では十分な運営ができず、今後の課題である。終日開館や高千帆分館の1階への移動ができれば利用者も増えると思う。まずは資料の整理充実を図ることで個性ある図書館をつくっていききたい。

委員 - 一つの案として、山陽地区は厚狭図書館を核に、小野田地区は中央図書館と距離が近い高千帆分館を廃止し、赤崎分館を厚狭図書館並みの図書館として整備する構想も考えられる。

委員 - 図書館は学習と文化の拠点である。高齢者にとっては近くにあるほうがよい。現在ある施設は残してほしい。

議長 - あらゆる機会を利用して、委員から図書館の必要性を訴えてほしい。

事務局 - 今日の会議で出た意見をもとに、図書館協議会からの提言書としてまとめてほしい。

以上